

令和元年6月29日現在

機関番号：32808
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2018
 課題番号：15K04153
 研究課題名(和文) 知的・発達障害者の性犯罪再犯防止SOTSEC-ID - 認知行動療法と地域包括支援

 研究課題名(英文) Effectiveness of group CBT for people with learning disabilities and sexually abusive behaviour: the SOTSEC-ID model and Therapeutic climate

 研究代表者
 堀江 まゆみ (HORIE, MAYUMI)

 白梅学園大学・子ども学部・教授(移行)

 研究者番号：50259058
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、知的障害・発達障害のある性的問題行動のある本人に向けて、地域社会で暮らしながら行動を改善できるような介入プログラムSOTSEC-IDの実施体制と効果を測定した。その結果、1. 自尊心を高める 2. 認知のゆがみの修正 3. 被害者への共感性を高める 4. 対人関係の機能向上 5. 性的好みの改善 6. リラクス・プリベンションの確保へのアプローチが有効であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

SOTSEC-IDを有効に活用するための社会包括的な人材養成のプログラム検討ができた。
 また、性的問題行動のリスクアセスメントをさらに客観化し、リスク管理との連動を円滑にすることを明らかにした。SOTSEC-IDの6つの目的にそって、1. ソーシャルスキル、2. 認知行動モデル、3. 被害者への共感、4. 衝動コントロール、5. 健全なセクシャリティー、6. 再発防止グッドライフプランという6領域の内容を知的障害者にわかりやすく提供することができた。さらに本人の凝集性の高まりと多層的支援トリートメントの重要性、各対象者のセッション効果の測定が課題である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is Effectiveness of group CBT for people with learning disabilities and sexually abusive behaviour: the SOTSEC-ID model and Therapeutic climate, Community-Based Treatment for Sex Offenders. As a result, 1. Increase self-esteem 2. Correction of cognitive distortion 3. Enhance Empathy for Victims 4. Improving interpersonal relationships 5. Improving sexual preference 6. It has become clear that an approach to securing relief and prevention is effective.

研究分野：発達障害支援

キーワード：性問題行動 知的障害 発達障害 認知行動療法 危機介入支援 地域支援ベース

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

知的障害や発達障害を含む精神障害を抱える人々が性暴力を行った場合、刑事司法システムをはじめとする法律の知識、性暴力矯正の知識や経験、対象者の障害特性の理解、当該障害に適用されるべき福祉および医療についての知識、これらを包括的に持ち合わせた人材は少なく、また、そういった対象者に対する包括的社会サービスが無いため、対象者は適切かつ十分な治療や支援を受けられない状況にある。性暴力は被害者心身への悪影響が甚大であり、しばしば重い心的外傷が後遺するという極めて深刻な反社会的行為であり、いかに性暴力の再加害を防ぐかは重大な社会的課題であった。日本においてこれらの人材養成とサービスの確立を行っていくことは喫緊の課題であった。

イギリスにおいては、Dr Glynis Murphy ケント大学教授らが 2000 年より研究してきた性犯罪再犯防止プログラム「知的障害を抱えた性暴力行為者への地域における治療モデル SOTSEC-ID (Sex Offender Treatment Services Collaborative in Intellectual Disabilities)」が有効であると報告されてきた。このプログラムは、性犯罪加害者への介入プログラムであり、認知行動療法を主に構成されているが、注目されるのが性犯罪行為者に対する治療サービス共同体を重視していることであった。つまり、知的障害者の性犯罪再犯防止に加えて、地域の支援者どうしがネットワークを組み、毎月 1 回事例検討とメンテナンスを継続すること、実施プログラム効果測定のためのエビデンスを収集することが構造化されていた。本プログラムの心理学的、医療的客観性が多数の論文として報告されており、知的障害のある人への治療効果の有効性がエビデンスベースで得られていた (Glynis Murphy 他)。

我が国では、刑務所や医療少年院において性犯罪防止プログラムが実施され始めていたが、矯正施設内プログラムであり、退所後の地域処遇を前提にした有効なプログラムは皆無であった。

そこで、筆者らは Dr Glynis Murphy ケント大学教授らとの共同研究により、我が国での SOTSEC-ID 実施に向けた検討を開始した。本プログラムの構造は以下のようなリストアセスメントと治療コンポーネントから構成されている。初期のアセスメントでは、性犯罪を犯した対象者の知的能力、適応行動、受容言語、メンタルヘルス、自閉症等に関するスクリーニング変数とその尺度、およびリスクアセスメントやマネジメントのための測定ツールが紹介されており、対象者の選定における客観性が図られることやプログラム効果の測定が、学術研究として実施可能なマニュアルとして構成されている。また、認知行動療法、リラプスプリベンション・モデル、グッドライズ・モデルなど、犯罪防止のための治療介入アプローチとして注目されているコンポーネントが組み込まれており、SOTSEC-ID 以外の先行研究としての性犯罪防止プログラムとの比較研究が可能となっていた。

我が国でも、上記のプログラムのコンポーネント (自閉症等に関するスクリーニング、認知行動療法、リラプスプリベンション・モデル、グッドライズ・モデル等) の基礎研究はあり、日本版でのエビデンスを得ながら介入プログラムを検討することが可能であることから、本研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究は、英国イングランドにおける知的障害を抱えた性暴力行為者への地域における治療モデル SOTSEC-ID を日本に導入していく可能性を探ることを目標に、日本における知的障害・発達障害の性犯罪の実態と支援課題の調査、本プログラムのモデル実施と効果測定、我が国における性犯罪再犯防止の人材養成プログラムの作成と実施を研究目的とした。

3. 研究の方法

(1) SOTSEC-ID 実施基盤の形成と人材養成

我が国において SOTSEC-ID を実施するためには、「治療サービス共同体」とそれを担う専門的人材養成を進めることが第一の課題であった。このため、SOTSEC-ID プログラムを実施する 2 地区において、実施共同体「トラブルシューター」(社会包括的人材)養成プログラムを実施した。触法障害者を継続的に支援する人材養成である。養成研修は、基礎研修 3 日間、アドバンス実務研修 3 日間とした。研修内容は、SOTSEC-ID インストラクター養成、および更生支援計画作成や刑事手続き入口支援等、地域での包括的継続的支援を維持できるトラブルシューターの役割、等で構成した。

(2) SOTSEC-ID プログラム日本版の作成とコンポーネント構成の検討

SOTSEC-ID プログラム日本版の作成とコンポーネント構成の検討を進めた。SOTSEC-ID プログラムは、認知行動療法、リスク・アセスメント、リラプスプリベンション・モデル、グッドライズ・モデル等から構成されており、日本版においても同じコンポーネントで検討した。

(3) SOTSEC-ID プログラム日本版の有効性に関する実践的検証研究

A 地区および B 地区における SOTSEC-ID プログラム日本版を実施し、対象者アセスメントとそれに合わせたプログラムの効果測定を行った。SOTSEC-ID にはリスクアセスメントほか、プログラムの効果測定のための心理アセスメント検査等ツールが組み込まれており、イギリス等の先行研究の測定結果との議論を行うことができる。

対象者は、性問題行動を起こした経過がある知的障害・発達障害のある青年・成人とした。年齢は、23 歳～45 歳、A 地区は対象者 6 名、B 地区は対象者 3 名であった。

プログラム実施方法は、各地区の支援者状況により依拠したため、A 地区は毎週 1 回、2 時間、

7 か月間、合計 27 回実施し、B 地区は隔週 1 回、2 時間、合計 28 回実施した。

4. 研究成果

(1) SOTSEC-ID 実施基盤の形成と人材養成の効果

SOTSEC-ID のモデル実施に向けた全国エリアのインストラクター養成研修を進めた。受講対象は、福祉支援者、教員、矯正保護等の専門支援者であった。

基礎研修の受講者は、全国 4 地区でのべ 178 名受講したが、このうち 2 地区(A 地区、B 地区)がアドバンス実務研修に進んだ。A 地区 B 地区の基礎研修受講者はそれぞれ 32 名、48 名、このうちアドバンス実務研修まで進行した受講者は A 地区 15 名、B 地区 21 名であった。SOTSEC-ID 実施にはアドバンス実務研修者がその後、2 地区のインストラクター、および社会包括的共同体のチームを担うことになった。養成研修前後での効果測定については、SOTSEC-ID の理解度等を聞き取り調査およびグループディスカッションにより検証した。

我が国において SOTSEC-ID を実施する基盤の形成と人材養成にあたっては、以下が重要であることが明らかであった。

SOTSEC-ID セッションを地域支援ベースで実施するためには、支援者をコアとしてインストラクターグループが 5~10 人程度必要になるが、全国 4 か所で実施した基礎研修のうち、2 か所は基礎研修で終わり、2 か所がアドバンス研修に進んだ。この違いは、主にはコアメンバーに SOTSEC-ID で必要となる認知行動療法の専門知識を有したメンバーがいるかどうか大きな差であった。コアの多くは知的障害・発達障害の特性理解やコミュニケーションスキルに関しては十分な経験を有していたが、参加者は主に現場の福祉スタッフであり、SOTSEC-ID のコアである認知行動療法やリスクアセスメントなどの基本的な心理的アプローチに関する知識が十分ではなかった。基礎研修での認知行動療法等のプログラム理解においてその差が明らかであった。各地の地域支援ベースでセッションを進めるためには、インストラクターのコアに教員経験者、心理職経験者が組み込まれていることが実施をより可能にしていた。

また、持続的継続的な実施を可能にする体制についても検討をした。インストラクターのほとんどはボランティアベースで参加したが、B 地区のインストラクターコアの 3 人は、基幹相談支援センター等の公的業務として参加することができた。今後、各地で展開する体制を取るためには、こうした公的機関の業務に位置付ける体制が必要であり、その可能性が示唆できた。

(2) SOTSEC-ID プログラム日本版の作成とコンポーネント構成の検討

SOTSEC-ID プログラム日本版でも、Dr Glynis Murphy ケント大学教授らの骨子をコアとしてプログラムコンポーネントを構成した。事前の徹底したリスク・アセスメント、対象者のストレングスと肯定的な将来に対する見通しに焦点化すること、肯定的変化として「性的態度と知識の変容」「自尊心の向上」「被害者への共感性の向上」「認知のゆがみの改善」に着目すること、プログラム枠組み作り、「性知識」「相手からの合意」「性的問題を話すにあたっての許可」、および「関係」「行動」「性役割」「認知のゆがみ」「信念」「態度」、性暴力行為に至る 4 ステージ、被害者への共感性の向上、再犯に至らないための行動計画 relapse prevention strategies (再犯防止戦略) で構成し、これらを通して、性トラブル等の犯罪等を犯した知的障害・発達障害のある人の地域での包括的な支援の在り方を考えるプログラムとした。

実際のセッションでは、対象者の障害特性やリスクアセスメントに合わせて、上記のコンポーネントの重要課題を選定し、セミオーダーでプログラム構成を作成することになった。

(3) SOTSEC-ID プログラム日本版の有効性に関する実践的検証研究

対象者の性的問題行動等特徴とリスクアセスメント評価およびセッション効果

SOTSEC-ID プログラムを実施するにあたって、対象者のリスクアセスメントを ARMIDIL0-S (性的問題行動における動的リスクアセスメント) により実施した。表 1 は事例 A の結果の一部を示した。Y=Yes(確実に問題ある/保護要因である)、N=No(問題ない/保護要因でない)、S=some(いくらかある)、X=わからない、あり、本事例は全体リスクが高リスクと評価された事例であった。以下の表 2 に対象となった 9 名中 7 名(2 名は途中離脱)の性的問題行動とリスクアセスメント等を示した。

表 1 ARMIDIL0-S による動的アセスメント

持続的なクライアント項目	リスク 評定	関連するデータ/コメント	保護要 因評定	関連するデータ/コメント
1. 監督へのコンプライアンス (規則遵守、協力的か、規範意識)	S	親への反発がある..	Y	危険に対する自己認識はある。規則は守る..
2. 治療へのコンプライアンス (同意、通院、治療に関わる強 味..)	N	自分の行動を直したいと希 望している..	Y	通院している..
3. 性的な逸脱 (行動、空想、興味、ヒストリ...)	Y	女子高生が好き 出会い系サイトにはまったこ とがある..	N	エレベーターには乗らない ようにしている..
4. 性への没頭/性衝動 (マス頻度、ホルノの利用、性的コ メント、自己コントロール..)	X	扱いやすい子を選んでいる 女性への恨みがある..	Y	ストレスが生じると自分か らカウンセリングを受け る..

表 2 対象者の性的問題行動とリスクの特徴 (ASD=自閉スペクトラム症)

	年代/性別	障害特性	性的問題行動	リスク評定	セッション効果測定
A	30~/男性	知的障害	不適切なタッチ	中	自尊心向上、ルール順守
B	40~/男性	知的+ASD	不適切なタッチ	中	自尊心向上、ルール順守
C	40~/男性	境界知能	痴漢	中	自己認知・対人関係の改善
D	50~/男性	知的障害	強制わいせつ	低	グッドライブズ向上
E	30~/男性	知的+ASD	強制わいせつ	高	自尊心向上、ルール順守
F	10~/男性	知的+ASD	強制わいせつ	中	自己認知・対人関係の改善
G	20~/男性	知的+ASD	不適切なタッチ	高	環境調整、リスク回避環境

SOTSEC-ID プログラム日本版の実施と効果測定

A 地区では、セッションインストラクターグループ 15 名体制で、7 か月間にわたり毎週土曜日 2 時間、27 回実施した。知的障害があり過去に性的問題行動を起こした経験のある人 6 名を対象に開始した。うち 2 名は途中で離脱したため表 2 の 4 名 (A ~ D) が最終セッションまで終了した。2 名の離脱内容は健康の問題と再犯であった。セッション途中のリスク管理に重要であった。表 2 に示すように、4 名の性的問題行動は主に、身近な人への不適切なタッチであり、セッション開始時のリスクは低～中リスクであった。

27 回のセッションでは、SOTSEC-ID の 6 つの目的 (1 . 自尊心を高める 2 . 認知のゆがみの修正 3 . 被害者への共感性を高める 4 . 対人関係の機能向上 5 . 性的好みの改善 6 . リラクス・プリベンションの確保) を達成するために、1. ソーシャルスキル、2. 認知行動モデル、3. 被害者への共感、4. 衝動コントロール、5. 健全なセクシャリティー、6. 再発防止グッドライフプランという 6 領域の内容を知的障害者にわかりやすく提供した。以下の 4 点の成果と課題を確認した。

- ・ 正確なアセスメントとリスクマネージメントの大切さ
- ・ メンズ (本人) の課題に応じたセッション活動計画作成
- ・ ファシリテーターの役割と連携・記録・評価の必要
- ・ メンズの凝集性の高まりと多層的支援トリートメントの重要性

各対象者のセッション効果は、支援者や親、本人からの聞き取り調査より測定した (表 2、表 3 ; ソーシャルスキル) 。

B 地区は、A 地区のセッション終了後、6 か月を経過した後に開始した。そのため、A 地区で課題となった点を改善しながら実施体制を編成した。

セッションインストラクターグループはメインコアを 3 名とし、継続的で一貫性のあるプログラム実施体制とし業務内勤務の措置を取ることができた。ほかバックアップインストラクターとして 10 名が交代でセッションを担当した。

また、事前のリスクアセスメントを十分時間をかけて行い、セッション中のリスク管理を行った。日中活動の変化に対しては、当該支援者との連携を定期的に行い、家庭との連携により余暇時間でのリスク管理も適宜進めた。これにより各対象者について約 5 ~ 10 名の共同治療体制を組むことができ、地域支援ベースにおける危機介入支援の効果的実施の方法を検証することができた。

セッションは 13 か月間にわたり毎週土曜日 2 時間、28 回実施した。B 地区の対象者は、性的問題行動においても、およびリスクアセスメントにおいても、中～高のリスクであり、A 地区と比較して高いリスクのある対象者であった。対象者のリスクに合わせてセッション内容をセミオーダーで作成した。28 回のセッションでは、SOTSEC-ID の 6 つの目的のうち、「2 . 認知のゆがみの修正」において、「プライベートとパブリックの理解」「その場所ですていいことと、してはいけないこと」を重視して実施した。また対象者はコミュニケーション能力にそれぞれ特徴があり、個別対応が必要な場面が多かったため、「1 . 自尊感情の向上」「3 . 被害者への共感性を高める」「4 . 対人関係の機能向上」では、可能な限り集団セッションと個別セッションを適宜組み合わせ、理解の深化と確認が行えるように工夫をした。プログラム全体にわたっての対象者の変化や効果測定も行い、表 2 のように各課題において効果的な向上を得ることができた。

(4) 今後の課題

今後、SOTSEC-ID を有効に活用するための社会包括的な人材養成のプログラム検討をさらに進める必要が確認された。支援ニーズ調査をもとに、SOTSEC-ID を有効に活用するための社会包括的な人材養成プログラム検討したが、さらに課題をインタビュー調査し、司法、福祉、教育から分析を行い、共同体制の構築課題をさらに具体化することが求められる。

また、性的問題行動のリスクアセスメントをさらに客観化し、リスク管理との連動を円滑にする必要があることが確認できた。

SOTSEC-ID プログラム日本版においては、6 つの目的 (1 . 自尊心を高める 2 . 認知のゆがみの修正 3 . 被害者への共感性を高める 4 . 対人関係の機能向上 5 . 性的好みの改善 6 . リラクス・プリベンションの確保) にそって、1. ソーシャルスキル、2. 認知行動モデル、3. 被害者への共感、4. 衝動コントロール、5. 健全なセクシャリティー、6. 再発防止グッドライフプランという 6 領域の内容を知的障害者にわかりやすく提供することができた。

今後、 正確なアセスメントとリスクマネージメントの大切さ、 メンズの課題に応じたセッション活動計画作成のポイント、 ファシリテーターの役割と連携・記録・評価の必要、 メンズの凝集性の高まりと多層的支援トリートメントの重要性、 各対象者のセッション効果の測定が課題である。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

堀江まゆみ (2018) 性犯罪・トラブルを犯した知的・発達障害のある人への地域での包括支援性犯罪加害再犯防止プログラム S O T S E C - I D の実践から特別支援教育・福祉実践の課題を探る (査読なし) , 特殊教育学研究, p 343.

堀江まゆみ (2015) 知的障害・発達障害青年の性のトラブル解決に向けた特別支援キャリア教育における性アクセシビリティ支援, 白梅学園大学・短期大学教育・福祉研究センター研究年報

表 3 本人の自己評価

使った時間	11.8時間
獲得されたスキルや理解度	メンバーと話ができてうれしかった。一番最初にカミングアウトした勇氣。ふざけた話し方ではなく真面目に大人としての話し方ができるようになった。他人の話が最後まで聞けるようになった。他のことをしなくなった。
難しい点	○最初の頃、人間関係がうまくいかなかったが、今はできるようになった。
コメント	願つぎが濃々しくなった。

(査読有) , 20 号 , p91-101 .

〔学会発表〕(計 1 件)

堀江まゆみ他 (2017) 「性犯罪・トラブルを犯した知的・発達障害のある人への地域での包括支援 - 性犯罪加害再犯防止プログラム S O T S E C - I D の実践から特別支援教育・福祉実践の課題を探る - 」 . 日本特殊教育学会第 55 回大会 .

〔図書〕(計 1 件)

堀江まゆみ (2016) 更生支援計画をつくる - 罪に問われた障害のある人への支援 . 現代人文社 , 220 .

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年 :
国内外の別 :

取得状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名 : 内山 登紀夫
ローマ字氏名 : UCHIYMA TOKIO
所属研究機関名 : 大正大学
部局名 : 心理社会学部
職名 : 教授
研究者番号 (8 桁) : 00316910

研究分担者氏名 : 安藤久美子
ローマ字氏名 : ANDO KUMIKO
所属研究機関名 : 聖マリアンナ医科大学
部局名 : 医学部
職名 : 准教授
研究者番号 (8 桁) : 40510384

(2) 研究協力者

研究協力者氏名 : 平井威
ローマ字氏名 : HIRAI TAKESHI

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。